

# 参 考 资 料

- 教師の仕事は、「やるべきこと」と「やったほうがよいこと」に分けられる。自分の拘りの「やったほうがよいこと」に精力を使い果たし、やるべきことをできないでいる
- 教師の役割、学校の役割、についてPTAを含め真剣に議論する
  - ・全人的教育に、疑問やさほど負担を感じていない
  - しかし、一部の教師に仕事集中している現実が
  - ・業務の優先度は、学校や教師個人によって異なる
  - 全教職員が関わるカリキュラムマネジメントが重要
- 学校・家庭・地域のそれぞれしかできないことの明確化
  - ・学校からは言いにくい。しかし、我慢してはいけない
  - コミュニティースクール（学校運営協議会）に期待
- 具体的なメス入れるところを全教職員で共有化する
  - ・教師がやるべきこと…授業準備、テストの採点(小テスト除く)、学習評価 等
  - ・教師がやった方がいいこと…ノート等の添削、作品のコメント、連絡ノート 等
  - ・教師がやらなくてもいいこと…学級だより、宿題の丸付け、集金業務 等

平成28年度 文部科学省委託事業

# チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業

子どもと向き合える時間を確保し、  
必要な教育活動を充実させるために

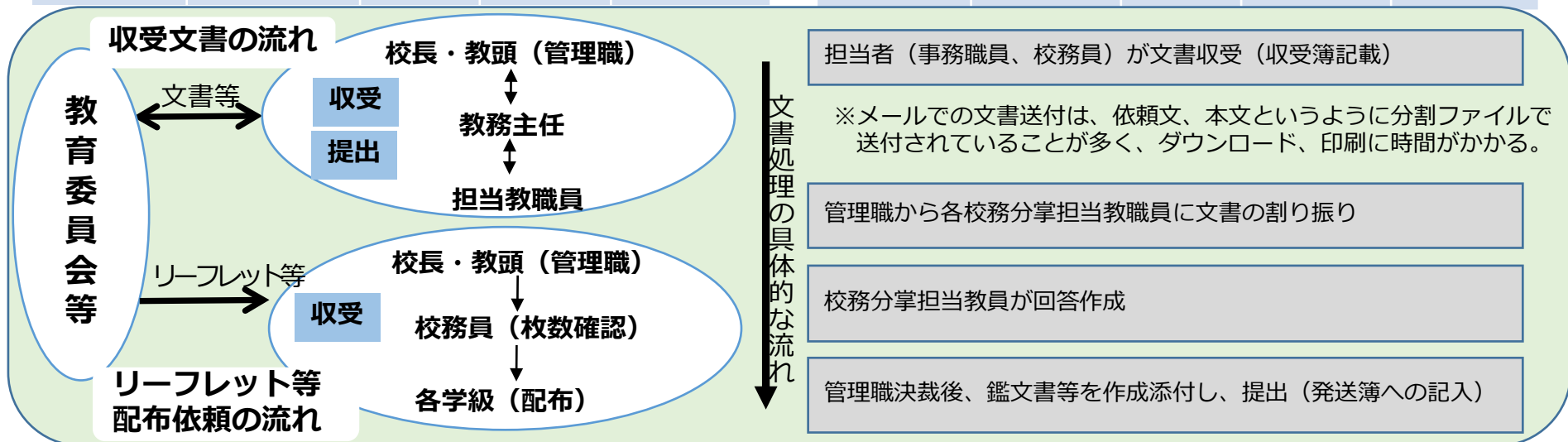
戸田市教育委員会



# 可視化WG活動報告 ～ 学校が收受する文書の分析と改善へ向けて ～

## ① 小学校、中学校各1校を対象に、昨年度1年間の收受文書の件数を調査

A小学校	教育委員会各課	市役所各課	他団体	合計件数	B中学校	教育委員会各課	市役所各課	他団体	合計件数
文書件数	1,744	99	481	2,324	文書件数	1,704	80	290	2,074



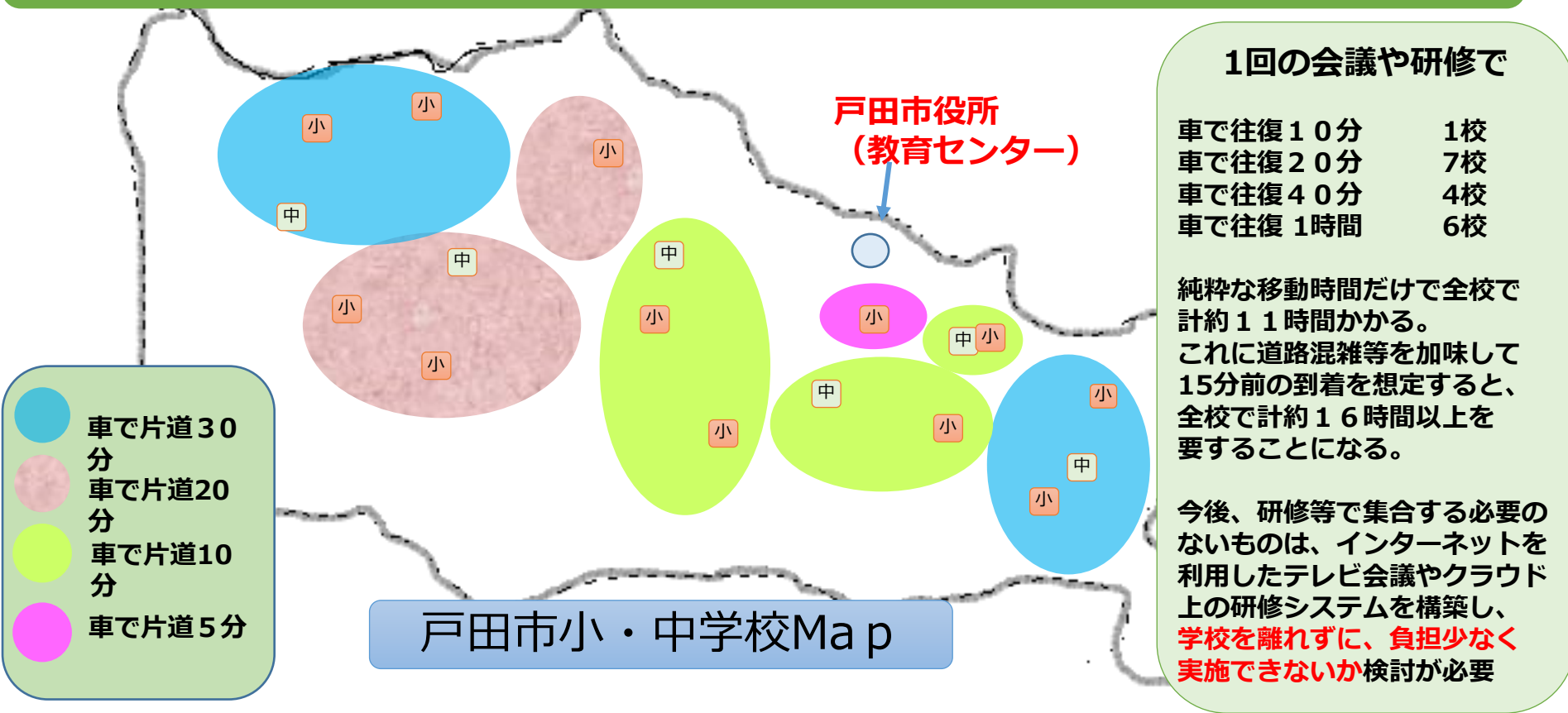
各校で、**年間約2,000件**以上の文書进行处理している。

1件の文書の処理時間を平均約30分間（收受、内容把握×人数、回答作成、回答確認、提出）と算定すると、**月平均約83時間**かかることになる（1日約4時間）。

今後、教育委員会で「**文書内容の要約の記載**」や「**提出方法の簡易化**」などを検討する。

# 可視化WG活動報告 ～ 教職員の出張に係る分析と改善に向けて ～

## ③ 教職員の負担となっている出張について、会場となる本市教育センターまでの各学校から移動に要する時間について検証

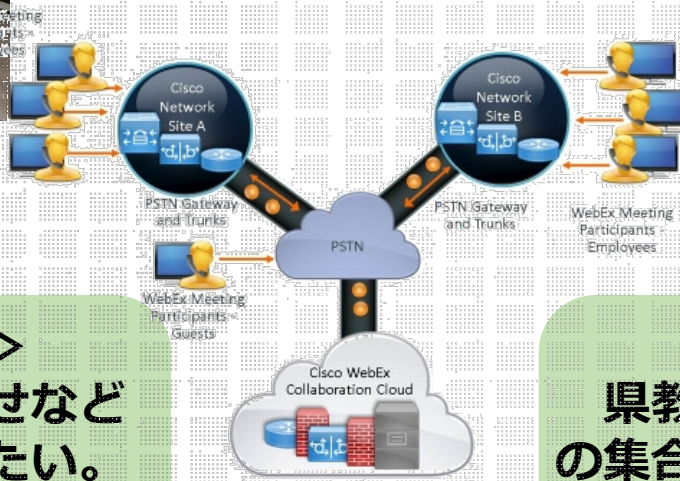


# 教職員の出張に係る改善に向けた取組について H28.9 ～WEB会議システムを活用した校長会議の実践～

## 市内全小・中学校長対象の教育長講話にて試行



可視化WGの報告を踏まえ  
夏季休業前の校長会議にて  
WEB会議を実施



＜参加した校長から＞  
報告事項や地区での打合せなど  
で積極的に活用していきたい。  
移動がなければ、教員の出張時の  
自習が少なくなる。

＜今後の可能性＞  
県教委における指示事項中心  
の集合研修等で活用できれば、  
移動時間や出張旅費など、大幅  
な削減ができるのではないかと。

# 共有化WG活動報告 ～ 共有化による教職員の負担軽減に向けて ～

## ① 教職員への負担軽減に関するアンケートを実施（H28年8月・全教職員を対象に実施）

自校のファイルサーバーの利用状況にあてはまるものは？

利用している	利用していない
89%	3%

何を共有化したら授業づくりの助けになり、自分でも利用しますか？（複数回答可）

ワークシート	指導案	自習用プリント	宿題用プリント	挿絵	板書計画	授業用プレゼン	授業動画
70%	65%	51%	50%	42%	41%	38%	32%

あなたは授業づくり以外で ①何が共有化されたら負担軽減につながりますか？  
②どんなことが負担ですか？

①共有化を望むこと	②負担を感じていること
校務分掌資料 年間指導計画 行事資料 週案 学級掲示物 学級・学年だより 会計 等	アンケート 在校時間調査（集計） 会計処理 部活動 備品管理 等

アンケート結果等を踏まえ、教職員が共有化を望む業務について把握し、  
**共有化すべき業務と共有化ツール**を検討

さらに、**経験年数等と関連付けて分析**を実施し、効率的な負担軽減支援策を検討

# 共有化WG活動報告 ～ 校務支援システムの活用 ～

② 小・中学校で現在使用している校務支援システムの活用状況について検証  
～ 株式会社EDUCOM（エデュコム）C4 t hの利用頻度別機能一覧 ～

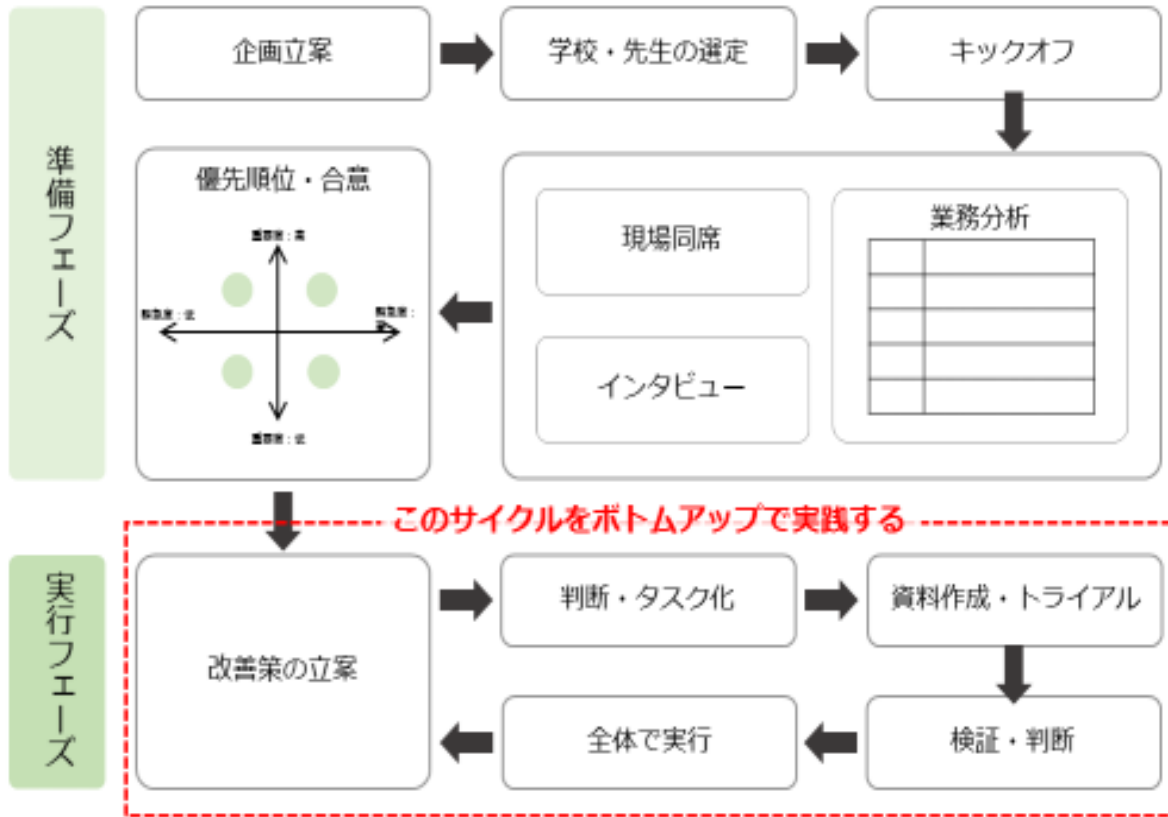
機能グループ	戸 田 市 導 入 機 能		
	利用頻度：高 (数千アクセス/月)	利用頻度：中 (数百アクセス/月)	利用頻度：低 (数十アクセス/月)
連絡・書庫	連絡掲示板 個人連絡	書庫	文書連絡 会議室
校務 スケジュール	予定表 学校日誌 週案・時数管理	施設・備品(予約)	教職員名簿 日課・時間割 日誌 出張
児童生徒 (成績)	出席簿 成績入力 成績出力 児童生徒名簿		いいところみつけ
保健	健康診断 保健日誌 保健室利用		

すでに導入している機能の見直し

文書件数の多さと処理の煩雑さを  
新たな機能を導入することにより負担軽減  
文書收受発送



### プロジェクトの展開イメージ



【C小の業務分析】



【D小の業務分析】





- 掲示物へのコメント量が多く、手が込んでいるが教育効果の程は
- プリントを裁断している時間が多い
- 学年便りのフォーマットが統一されていない
- コピー機が部屋の隅に配置されているなど、動線に課題がある
- 児童の提出物が一元化されていない。(宿題、自学習、便り、保護者への許可や回収物を一元化できないか)
- 内線電話の時間帯が決まっていない(授業中に鳴っている)
- 校務支援システムの使い方が、学校間で異なっている
- 短い朝礼、夕礼がなく、メリハリがついていない  
(掲示板は読んでも、各自バラバラに動いているように見える)
- 負担感等をいくら調査しても、具体的な改善例をいくら示しても、**学校教職員等のマインドセットを変え、本気で取り組まないと、根本的な解決にならないのでは**

# 効率化WG活動報告 ～ 部活動に関する負担軽減について ～

## ③ 市内中学校長会を主体として部活動の在り方を検討

### 戸田市の現状

- ・本市の在校時間調査から、土・日曜日の部活動指導だけでも月約**24時間**の勤務時間を要している（H28.4月～6月の中学校教員の平均時間）。
- ・平日の指導時間を1日2.5時間とすると、月約**50時間**が部活動指導に充てられている。

### 戸田市の課題

- ・部活動指導員が顧問の教員の代わりではなく、指導の充実のために使われている。
- ・(教員のヒアリングから)全国大会出場など、部活動に熱心な教員でも負担を感じているが、保護者等の期待も大きく、休むことが難しいと感じている。
- ・部活動と生徒指導を結び付け、部活動における顧問と生徒の関係に依存している。

### 対応策

- ・学校組織全体で運動部活動の目標、指導の在り方を検討
- ・各学校、運動部活動ごとに適切な指導体制を構築
  - ・週2日（平日に1日、土日に1日）の休養日を設定
  - ・早朝練習の期間や時間の適正化
- ・外部指導者等の協力を得る場合の校内体制の整備
  - ・負担軽減の視点から外部指導者等の配置を強化
  - ・専門性のあるトレーナーによる巡回指導日の設置

教職員・生徒・保護者の理解  
経費や人材の確保



**戸田市部活動の在り方検討委員会(仮)の設置**

構成員：学校関係者、生徒代表、保護者代表、有識者 等

# H29 戸田市部活動の在り方に関するプロジェクト

## <部活動に関する課題>

- ・学校教育活動の一環としての活動に加え、社会体育的な要素も担うという二面性を有していることから、練習の長時間化や休日の活動回数の増加、過熱化傾向により、教師としての業務等への影響。
- ・生徒が、長時間の練習や休日が取れないことによる疲労の蓄積やスポーツ障害。
- ・指導できる教師の不足や負担感にあわせ、生徒や保護者の部活動に対する様々な要望に対応困難。

## 戸田市部活動の在り方検討委員会

委員：戸田市体育協会代表、部活動外部指導者代表、中学校教職員  
市長部局関係課、教育委員会関係課事務局  
(生徒代表、保護者代表、部活動顧問代表による熟議)

### 調査研究

- ・部活動に関する実態調査（保護者、生徒等）について
- ・他県他市の先進的な取組について

### 適切な活動

- ・適切な活動日、活動時間等の検討について
- ・エビデンスに基づく適切な指導について

### 外部人材

- ・外部指導者及び民間企業等との連携について
- ・部活顧問の総合的な指導力の育成研修等について

戸田市部活動の在り方ガイドラインの作成

# 戸田市の部活動が大きく変わります!

～「戸田市部活動方針」2学期から運用開始～

戸田市では、スポーツや文化活動等を通じた生徒の健全な成長と教員の働き方改革を両立させ、持続可能な部活動運営を行うため、戸田市部活動方針を策定しました。

## 部活動に関する基本ルール

### 〈活動時間に関する3つのルール〉

#### ★ルール1：休業日

週2日以上オフにします!  
(平日1日以上、週末1日以上)の休業日)

#### ★ルール2：活動時間

活動時間は平日2時間以内、  
週末は4時間程度以内になります!

#### ★ルール3：早朝練習(朝練)

朝練は行いません!

#### ▼ほかにも…

#### ●ルール4：活動計画の共有

休業日や活動時間等を示した年間・月間の計画を家庭と共有します!

#### ●ルール5：参加大会の精選

参加する大会は、生徒の健康状態や発達状態等を踏まえた範囲内とします!

#### ●ルール6：いじめ・体罰の禁止、安全管理

いじめや体罰の禁止はもちろん、適切な健康管理により事故防止を徹底します!

#### ◆「4大会」前の例外

ルール1～3の例外として、校長が定める年間4回までの大会やコンクールについては、その開催日の前1ヶ月間における2週間に限り、これらの3つのルールによらず活動することができます。

ただし、この期間中でも1週間の総活動時間は16時間を上限としています。

(例)

例外可能期間							例外期間	
日	月	火	水	木	金	土		
					1	2		
3	4	5	6	7	8	9		
10	11	12	13	14	15	16		
17	18	19	20	21	22	23		
24	25	26	27	28	29 大会	30		

## 部活動の実態に関するアンケートの結果から…

### ★部活動に関する悩みがある生徒は全体の約半数!

悩みの理由トップ3は、

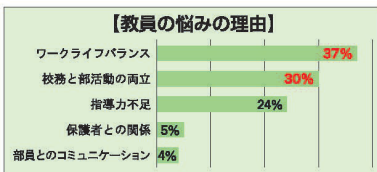
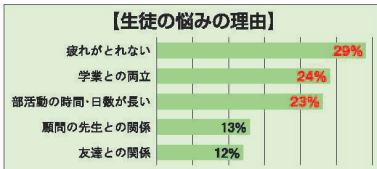
- 1位 疲れがとれない (29%)
- 2位 学業との両立 (24%)
- 3位 活動の時間・日数が長い (23%)

### ★悩みがある教員は8割以上! 悩みのトップ2は、

- 1位 ワークライフバランス (37%)
  - 2位 校務と部活動の両立 (30%)
- となっています。

また、活動日数の実態については、平日は生徒の7割、教員の6割が週5日間、休日は生徒の6割、教員の4割が週2日間とも活動しています。

さらに、週7日間(平日5日かつ休日2日)活動している生徒は全体の半数、教員は全体の3割となっています。



## 戸田市部活動方針に関するQ&A

### Q なぜ今回の方針を定めることになったのですか?

A 平成26年に公表された経済協力開発機構(OECD)の「国際教育指導環境調査」では、日本の中学校の先生の平均勤務時間が参加国中最も長いことが示されました。また、国全体でも、「教員の働き方改革に係る緊急提言」が出されたり(平成29年8月)、スポーツ庁から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が示されたり(平成30年3月)するなど、全国的に大きな話題となっています。また、今回本市が実施したアンケートの結果から、多くの生徒や教員が長時間の部活動について悩みを抱えていることが分かりました。これらの状況から、戸田市では部活動方針を策定し、生徒の負担軽減や、教員の生徒と向き合う時間や十分な授業準備の時間の確保などを推進することにしました。

### Q 今回のルールはどのように決めたのですか?

A 平成29年10月に、校長や部活動顧問、外部指導者やPTAの代表からなる「戸田市部活動の在り方検討委員会」を立ち上げました。さらに、生徒、保護者、教員、校長、部活動外部指導者を対象とした部活動に関するアンケートを行い、実態を把握した上で、議論を積み重ね、戸田市中学校体育連盟等との調整やパブリックコメントを経て策定しました。

### Q なぜ例外期間にも週16時間という上限があるのですか?

A 海外の研究等によると、スポーツ活動時間が長いほどスポーツ外傷・障害の発生率が高く、特に、16時間/週以上でより高くなるということが示されています。そのため、けがのリスクを抑制するためにも16時間という上限を設けました。

### Q クラブチームの扱いはどうなりますか?

A 学校外で任意の運営であるクラブチームは、学校の教育活動ではなく一般の社会教育活動に当たります。そのため、部活動とは区別して活動が行われる必要があり、顧問が運営に携わっている場合でも、生徒や保護者の方々参加を強制されることはありません。また、クラブチームは、部活動でけがをした際に適用される「スポーツ振興センター」の保険が適用されないこと、学校備品の使用について他の社会活動団体と同様の扱いになることなど、様々な場面で部活動とは異なる扱いとなるため注意が必要です。

本方針への皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

発行・問合せ 戸田市教育委員会

# 戸田市の中学生の部活動

# が大きく変わります!



～「戸田市部活動方針」が2学期から運用開始～

市が実施した中学校の部活動に関するアンケートでは、多くの生徒や教員が長時間の部活動に悩みを抱えていることが明らかになりました。そこで市では、生徒の負担軽減のほか、教員が生徒と向き合う時間や十分な授業準備の時間の確保などを推進していくため、戸田市部活動方針を策定しました。今回は、その概要をご紹介します。 問い合わせ 教育政策室(内線332)

## 部活動に関する基本ルール

### 活動時間に関する3つのルール

**ルール1**  
休養日

週2日以上オフに  
します!

**ルール2**  
活動時間

平日2時間、週末4時間  
程度以内にします!

**ルール3**  
早朝練習

朝練は  
行いません!

平日1日以上、週末1日以上を休養日にします。定期テストの1週間前と学校閉庁日は休養日にします。 下校時間を厳守し、生徒が安全に帰宅できるように配慮します。

### 「4大会」前は例外となります

ルール1～3の例外として、校長が定める年間4回までの大会やコンクールは、その開催日の前1カ月間における2週間に限り、3つのルールによらず活動することができます。

ただし、この期間中でも1週間の総活動時間は16時間を上限としています。

(例)	日	月	火	水	木	金	土
							1
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	大会

● 例外可能期間(1カ月)    ■ 例外期間(2週間)



### その他のルール

**活動計画の共有**

休養日や活動計画などを示した年間・月間の計画を家庭と共有します!

**参加大会の精選**

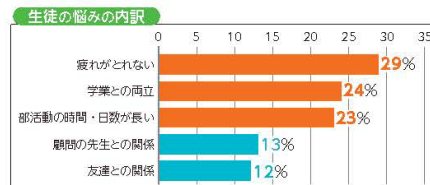
参加する大会は、生徒の健康状態や発達状態などを踏まえた適切な範囲内とします!

**体罰・いじめの禁止、安全管理**

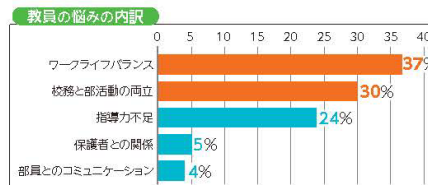
いじめや体罰の禁止はもちろん、適切な健康管理により事故防止を徹底します!

## 部活動の実態に関するアンケートの結果から…

部活動に関する悩みがある  
生徒は全体の約半数!



部活動に関する悩みがある  
教員は8割以上!



活動日数の実態は、平日は生徒の7割、教員の6割が週5日間、休日は生徒の6割、教員の4割が週2日間活動していることが分かっています。

さらに、週7日間(平日5日かつ休日2日)活動している生徒は全体の半数、教員は全体の3割となっています。

## 戸田市部活動方針に関するQ&A



**Q** なぜ今回の方針を定めることになったの?

**A** 生徒や教員の長時間の部活動に対する悩みを解決するためです。  
OECD(経済協力開発機構)加盟国の中で日本の中学校教員の勤務時間が最も長いことや、スポーツ庁から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が示されるなど、中学校の部活動は全国的に大きな話題となっていました。今回、市が実施したアンケートの結果から、多くの生徒や教員が長時間の部活動に悩みを抱えていることが明らかになりました。これらの状況から、市では部活動方針を策定し、生徒の負担軽減のほか、教員が生徒と向き合う時間や十分な授業準備の時間の確保などを推進することになりました。

**Q** 今回のルールはどのように決めたの?

**A** 校長や部活動顧問、外部指導者やPTAの代表が検討し策定しました。  
平成29年10月に「戸田市部活動の在り方検討委員会」を立ち上げ、検討してきました。生徒、保護者、教員、校長、部活動外部指導者を対象とした部活動に関するアンケートを行い、実態を把握した上で、議論を積み重ね、市中学校体育連盟などとの調整やパブリックコメントを経て策定しました。

**Q** なぜ例外期間にも週16時間という上限があるの?

**A** けがなどのトラブルを防ぐためです。  
海外の研究などによると、スポーツ活動時間が長いほどスポーツ外傷・障害の発生率が高く、特に、週16時間以上でより高くなるということが示されています。そのため、けがのリスクを抑制するためにも16時間という上限を設けました。

**Q** クラブチームの扱いはどうなるの?

**A** 部活動とは区別されます。  
学校外で任意に運営されるクラブチームは、学校の教育活動ではなく一般の社会教育活動に当たります。そのため、部活動とは区別して活動が行われる必要があり、顧問が運営に携わっている場合でも、生徒や保護者が参加を強制されることはありません。また、クラブチームは、部活動でけがをした際に適用される「スポーツ振興センター」の保険が適用されないこと、学校備品の使用が他の社会活動団体と同様の扱いになることなどさまざまな場面で部活動と異なるため、注意が必要です。

## 【教育委員会の取組】

- 出退勤時刻の管理（ICカードの導入）
- 統合型校務支援システムの導入（業務の電子化）
- 学校が作成する指導計画等の支援（ひな形の作成）
- 労働安全衛生管理の徹底（全校全職員のストレスチェック実施）
- 留守番電話の設置
- 学校閉庁日の設定
- コミュニティ・スクールの導入と活性化
- スクールカウンセラーの配置
- スクールソーシャルワーカーの配置
- スクールサポートスタッフ（教頭サポート）の導入
- 部活動指導員の配置促進及び部活動の運営に係る指針の作成
- 中学校における生徒指導担当教員の充実
- 給食費の公会計化
- △スクールロイヤーの活用 → **教育委員会ロイヤー配置**



# 学校行事の教育効果の再考

## 例年通りに戻すべきか？



入学式

卒業式

運動会

体育祭

遠足

林間学校

修学旅行



### ▶ 中止や規模縮小による教育効果の喪失は？

これまでは行事本番だけでなく事前準備や練習に相当の時数や労力をかけてきた。

## 特に大きな問題が生じていないとしたら？



### ● 様々な教育効果や思いがけない子供の育ちが…

- 保護者が短時間での参観
- 少ない競技に全力傾注
- 子供主体で代替行事の企画
- 新たな学びの創出

**規模が大きければ大きいほど、また投下時数や労力が多ければ多いほど、子どもたちの学びや育ちが深まったり、高まったりするわけではない**

# 「あたりまえ」の再考

## スポーツの視点から日本の「あたりまえ」を再検証する



前做え



体育座り



選手宣誓



体育 男女別習



補欠選手



女子マネージャー



組体操



体罰

# 部活動の再考

## 日本スポーツ界の「あたりまえ」



出典：帝京大学経済学部 大山 高 准教授「#あたヤメ」チャンネル企画概要書より

## 部活動サポート事業

- ☑ 専門家の支援による部活動の「量」から「質」への転換
- ☑ エビデンスに基づくトレーニングの実現
- ☑ 外部指導者の活用による部活動顧問の負担軽減

# 教育委員会月報

文部科学省

特集  
連載  
全3回

## 教育×デジタル 第1回「デジタル庁と教育について」

資料

## 教員免許状の授与状況

### Series 地方発! 我が教育委員会の取組

広島県教育委員会 「遊び 学び 育つひろしまっ子!」の実現に向けて  
福岡県春日市教育委員会 夏季休業明け18校の手作りオンライン授業

### Series 学校における働き方改革

戸田市教育委員会 戸田市の小・中学校の働き方改革

お知らせ／教育長紹介



2021年12月17日発行 第73巻8号

2021 December

12

戸田市教育委員会

# 戸田市の小・中学校の働き方改革

～何より子供と教師が「明るく元気」であるために～

## はじめに

近年、児童生徒を取り巻く環境が、多様化・複雑化する  
とともに、GIGA スクール構想の実現に向けた ICT 教育を  
推進するなど、多くの役割や幅広い能力が教師には求められ  
ている。

将来の日本社会を担う人材である子供たちを育てるため、  
教材研究や授業準備、児童生徒と向き合う時間を確保する  
ため、教師の服務を監督する立場である市町村教育委員会  
がイニシアティブをとって業務改善への自走を促し、教師の  
働く環境を整備していかなければならないと考える。

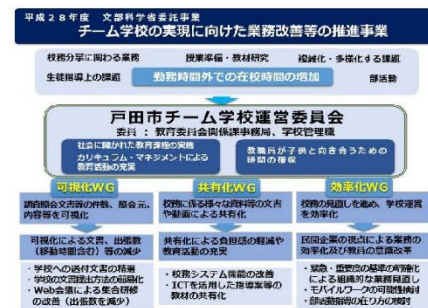
そこで、本市では、教育の質を担保しながら、教師の働  
き方改革を推進するという、「教育改革」と「働き方改革」  
を両輪で進めている。

## 教師の負担軽減策の検討(キーワードは「3K」)

2016年の4月から6月の本市における、ひと月当たりの  
勤務時間を除いた在校等時間(以下、「時間外在校等時  
間」。)の平均は、小学校で50-60時間、中学校で75-85  
時間(土日の部活動を含む)であった。そのため、時間外  
在校等時間の長い教師が多いこうした状況を改善することが  
急務であった。

そこで、「優先させる業務」また「効率化させる業務」  
を検討するため、2016年度から文部科学省委託事業「チ  
ーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業」として、戸  
田市チーム学校運営委員会の中に、「可視化ワーキンググ  
ループ」(以下「WG」。、「共有化WG」、「効率化  
WG」の3つの「K」となるWGを設置し、教師が子供と  
向き合える時間を確保し、必要な教育活動を充実させるため

の研究に取り組んできた。



平成28年度文部科学省委託事業  
「チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業」

まず、可視化WGでは、学校が収受する文書、教師の  
出張について分析した。その結果、各校で文書処理に月平  
均約83時間(1日約4時間)を費やしていることや、各学  
校から本市教育センターまで出張すると、1回の移動時間  
だけで全校で16時間以上を要していることが明らかとな  
った。こうした現状を踏まえ、集合型研修や会議の在り方につ  
いて検討を行い、通知文書や調査・照会を見直すとともに、  
Webexによる研修・会議における「テレビ会議システム」  
に早くも着手した。

次に、共有化WGでは、共有化すべき業務内容と共有  
化ツールを経験年数等と関連付けながら分析し、校務分掌  
の変更や人事異動があっても、効率的な情報共有が可能に  
なるよう、各学校のファイルサーバーの運用ルールを統一し、  
統合型校務支援システムの機能の見直しを行った。

そして、効率化WGでは、簡易な出退勤システムを導入  
し勤務時間を把握するとともに、民間企業の協力を得て、  
一部の小学校の特定学年の教師の業務優先度について調  
査分析を行った。民間企業のコンサルティングを受け、業務